



大正十四年七月十四日印刷
大正十四年七月十八日發行

編輯兼
發行人 村山 知義
東京市芝區田村町十八番地
印刷所 東京市芝區田村町十八番地
美堂

東京市芝區今入町二十一番地
發行所 長隆舍書店

電話銀座二二三二
總發東京一五一八

一部 五十錢 (送料二錢)
半年 二圓五十錢 (送料共)
一年 五圓 (送料共)
每月一圓十五日發行

ボクは戸籍の看板である

鳥居吉久

END THIS PUSH ち

蓄音機が
アッわわッ だとい
おんま ハイドウドウ
泣シヨンペンする
オシナの感情のおできな
切手で貼つてやれ

一銭銅貨はセルロイドの淫賣だ

口アケタエアーストップと

パットの 箱が

分列式に退屈して

めくら編の百姓娘が

尻でアイサツする

あすはまた

天氣が變る

事によると曇り

悲壯なる風景二つ

大晦日の突端に

ツ立つて

ピストルを

のどに擬する者は省線の新ヤセウである

オンチヨヨヨ

チトコヨヨヨ

ムネ

ヤメ

サツクは

一箇

十銭だ

GANGUと其の癖

榎本喜芳

プリントグラスの様に明快に

晴れ渡りたる、

それぞれのウインドウケース、

商隊の空気に中に

芽生た假面、

ビノードコッターの粉黛

其の種子を大切にせよ。

透明な半液の膠質物體は

レントトの中のニトロペンチン

の芳香ユキス。

煮沸油騰兎角テクニツクの

相違だ。

アダカモゾーダ水の如き

氣泡に覆まれた、

チツサイ可愛らしい御婦人達

昇降の上下動、瞳と口紅と

毛細管現象。

八階の頂點から、

ジヨジヨと地上に到達する迄。

市民が裸體美の

シウアク觀賞の爲に

ウスモノノ、西日が指せば、

ジユ動する一個の筋帯が、

肉の一個體が少年教育の

正科となる迄の時間。

XXXXXXXXXX

鐵が鐵と打撃細胞組織の終末。

ガラスの様に明快に晴れ渡りたる、

それぞれのウインドウケース

の中で、うむれ腐た膠質の物象。

たとえば市民共有となれる時の●●▲

蛙の卵にニタリ

フィルムの如く、ネガティブの

如く、陰惨に凝石の上を、

うごめきて下水溝を形成する。

ガラスの如く明快に晴れ渡りたる、

ウインドウグラスに、

一〇〇〇の瞳が追従する。

一〇〇〇の瞳がアツチエ向く

糞パイの瞳だ、

アバートメントのマドダ。

あの子の複雑な涙線だ。

厭世自殺の前徴

梅津錦一

三下り半の情慾が笑つて

三年越のこの戀も

すんでのこと

流産するところだつた

フキゲンな獨唱でまつくら開だ

ノラ犬だつて交尾期はあるぞ

黒猫がアネサンカムリで

踊るぢやあないか

タラタラターンタン

イクラブンマイクワイクワデモネロガシマ

ダデクルモノカタラタラターンラン

あけ開いた窓

新婚夫婦の帳屋がゆれる

一人者は金がない

男はハダシで

どろまみれの趾が

初夏の土に吸ひ込まれて行く

女よ

蛙が蛇にのまれて

變態性慾が苦しまぎれなんだ

ギューツ ギューツ

トツカビンダツテ淫賣の廣告さ

田舎は田植時

初夏の水氣で女は皆ばらんでしまつた

小供だつて齧齧の鉢に

みどれて居るぢやあないか

Send Only
Only

\$250
A Month

\$350
A Month

\$100

Dealers Wanted
Everywhere

1/2 pound, 65c
3/4 pound, \$1.00
1 pound, 1.25

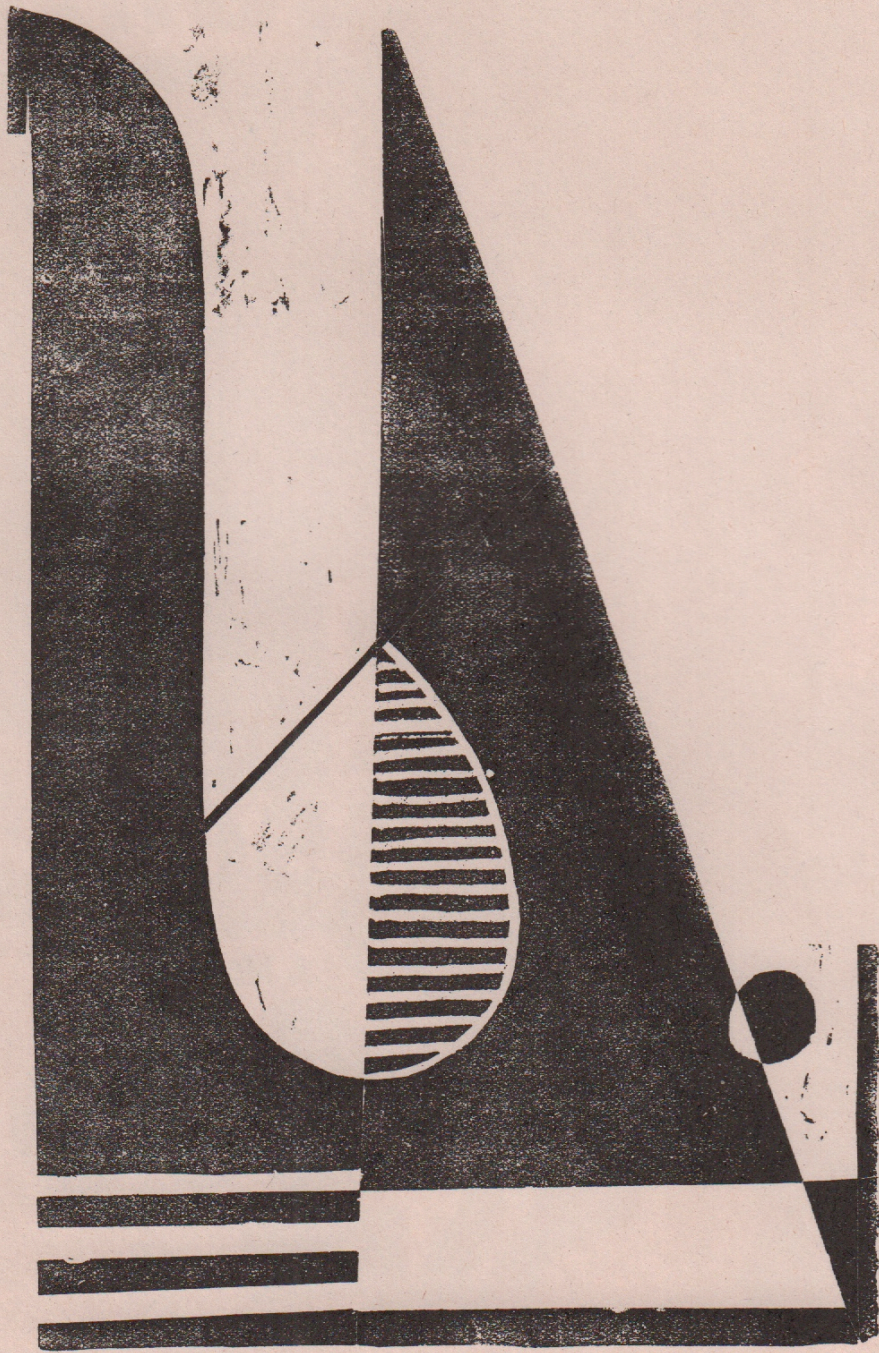
public at large,
dubbed cut
Instead, w
analyze ev
me th

WURLITZER

Jansons
Lady Mary
Chocolates
de Luxe
HALF POUND

東京支店

萩原恭次郎



LINO -

岡田龍夫

被虐者の藝術

村山知義

自らの内に力のある被虐者は被虐されるといふこと、そのことを楽しむ。そして自らに對して殘虐を働く。その藝術は非常な効果を及ぼす。何となれば、被虐者の自らに對する殘忍性より大きな權力の象徴はあり得ないから。

自らの内に力無き被虐者の藝術は二つに分れる一つは一般的偉大さへの憧憬の力に依つて生み出される藝術であり、他の一つは泥濘の如き叫喚呻吟である。

自己虐壓の強者はつぶやく。

「すべてである」と云ふこと、それは寧ろたやすい。だが、ただ一つであらねばならないと云ふこと、それは何たる賤民の要求ぞ!

強者は又二つに分れる。即ち彼等にとつてはすべての命題に對して反對の命題がある。そして第一のものはこれら無數の相反する命題のうち完全に没落し得るが、第二のものにとつては、それらを綜合する所の命題が必要であり、そしてそれは「汝、半羊神たれ。」といふ命題である。

半羊神はMYD—MYUと啼いて灰白色の身をくねらせる。そして眼を熱てほてらせて慾望の放蕩をする。

もし藝術が偉大なものでなければならぬとしたならば、凡そ藝術が力と魅力の最大量を意圖するものであるとしたならば、藝術を生む者は自己虐壓の強者、就中半羊神である。

しかしながら如何なる自己虐壓の強者も半羊神も流行の前には意志の衰弱をまぬがれない。

現代は鐵の假面をかぶつたものの横行する時代である。鐵假面。彼等の合言葉は無恥である。彼

等はずもともと衰弱すべき意志を持たない。それ故彼等は無敵艦隊である。それ故もしその鋼鐵の艦首が流行に乗じて突進すれば（凡そ突進は無恥のシムボルである）熱をやんだ豊饒たぐひない半羊神は忽ちGYAと粉碎されるであらう。たとへ鋼鐵の艦首がヤワであつたとしても、半羊神は進んでその貞操を提供する花嫁の如くその身を艦首に打ちつけて死ぬであらう。

それ故鐵假面はメゾーサの首である。
ダダは形而上學的國粹黨である。

彼等は無線電話で死亡通告をする死の神である

ダダは一面ロマンティックである。何となればロマンティックイズムとは一般的偉大さへの憧憬と、僅少なる自己虐壓とであるから。

現代は一面的なるものの横行の時代である。それは彼等が一面的であることは彼等の罪ではなくて社會の罪であると理解されるからである。嘗てさうでない時代があつた。その時は人間性は多面性の祝祭を祝つた。ギリシャ、ゲート、ワグナー、ミケランジェロ、レオナルド。

假面の命題、或ひは現代の命題。眞理とは復讐への意志である。

自らの内に力ある被虐者よ。汝の意志は汝のうちにあつて憐れにも襤褸雜巾となる。

無理やりに奪ひ取つたる權力感情。かくして鐵假面はその身のまわりの雜巾に最もたねねなる縫ひを施す。

新しき修身教科書、道學書、瀟灑する所の偉大さ。カムレンド。我々は自らを縮少し、削り取り場合に依つては熱狂しなければならぬ。だが結局、昆蟲は季節的なものである。

一般的偉大さの時代とは、一人の人間が偉大であることを許し得ないほど一般が不謙遜になつた時代のことである。そのために彼等は「偉大さ」の標準を打ち倒す。

1. ジャズバンド（泥濘と咆哮）
2. 一般的自由（一般的偉大さ）

この二つの河は永遠に合流しない。前者は強迫觀念に後者はヒロイズムに罹つてゐる。

力ある者はいつの世にも貴族の髭を生やして生れてくる。ジグフリードが王にならないこと、それはこの世で最も困難なことであらう。

あらゆる存在を嫉妬の眼をもつて見ること、それは弱者に許された唯一の權利である。

王は自らを恥ぢる。それはジグフリードの背中の木の葉のあとである。

（次頁に續く）

ぶたのめ

秋田鉄騎クンが提灯持ちのクラルチか。おい。退

屈だなあ。面白くないア。光「なんて疲れたなあ、

鉄旅「メクス買捌所か、おいねむいなあ—

だ。さぞ立派な堂々たる輪次が、載つてあることだら

う。無學な俺達なんざあ、見ないさから頭がさが

ら。その上、まことに整つたグレイユツまで持て

おいでらつしやるカイ!

の。アソブン鳴くない。アツから夜が明けらあ、夜が

明けたら「めし屋でルクスの丸燈きでもクラヘテ

めしがクラヘテ馬の轡に働きなさい。

難死、放てるど五月の蟬がたかろぞ。アソブン鳴い

てやがらあ。

め。小牧よ!またクラヘテか!新しいクラルチの時

代か!俺は目をつぶると。早く通り過ぎて呉れ。さ

うした南風にも等しいモノ、ホセうな連中の中に君

を見る事は、自分らの目の毒だ。野暮かしら?

知り合ひのお情で讀んで見たのが勝ちやんのドラ

クク父と子!「勝ちやんのお錢は何世紀か前と同じ

にソツパリ女であるけな、そしていとも佛面して

私共に御覧下さるアロ藝術家のカンブレである

さうな。第一家族制度、第二階級階級、第三階

級。人生、生命、珍刻味々々。おや偉大なるは藝加

である。哲學である。生活である。アナムである

吾がなつかしき勝様、私も福島中學の生徒として

教導下さるか。だが先生、今少し色気があつてもよ

うござんすな。

め。まあ一寸この後頭骨を撫で、やつて呉れよ、讀者

諸君!我等は時代と共に歩み、社会と共に考ふる人

の精神である。全生活を以つて裏付けた知識である

心算加して綴られた科學である。社会が信む、故に

我に憂色があるのだ。おぼろげやんやん、おぼろげさん達の

夕食とりも楽しんでやうな君等の憂色、未だある。『社

會に光輝をもたらすものは暗黒の秘鍵を探らねばな

らない、クラルチは暗に言まれた光りださうぞ。魂

角世がこう神經衰弱時代になると、こんなボクタク

光りでもキキメがあるのか。俺の友達に稀世の大

天才詩人がある『太陽射線!太陽強盗だ!』なぞと十

二年間叫び綴げた深刻イキトでしてね、御氣に召し

たら何時でも御照會します。感感痛で深刻で勇敢極ま

る革命屋さん!ヒヒ、しつかりアノアツキセー!ク

め。よくもこの圖々して、よくもこのバカ(しは

が白晝云々たものだ。ハタクの文學雜誌を見ても

るのでは腹も立たないが、このクラチさされたお化

けを見を腹が立つて来る。『鋭力!多情報!なん

て漢詩なんかをつねこんで、胸葉派いや。演説なら

商賣、研究なら研究、與大なら與大、腹もすはらね

えぞまで、クラルチ!か!勝手にして呉れ。

た。坂本勝氏の一番戯曲父子!は非常にいいものだ

簡潔で、ひと通ざると思ふ迄不要のものが除か

てゐる。君の性格がつかり現はれてゐる。アソブ

もい。啓蒙用として、金子洋文氏のものなぞと並

べ稱さるべきである。

クラルチの諸君よ。たがれて憤激する程の切

やんでもあるまいね。たがれて消え、持上げられ

て喜ぶ程の光なら、お人としなら、私は諸君の「光

かべの花

花柳はるみ

「あなたはあしやれをしませんねえ。」

「え、人氣のため。」

「あなたは品行方正ですねえ。」

「え、人氣のため。」

「あなたはあしやべりをしませんねえ。」

「え、人氣のため。」

「あなたはなか／＼あしやべりですねえ。」

「え、人氣のため。」

「あなたはあしやべりですねえ。」

「え、人氣のため。」

「知りません。わたくしは女優なのです。作者のためにも女優なの

です。演出者のためにも女優なのです。わたくし自身のためにも女

優なのです。わたくしの身體が人氣を呼ばなければわたくしは死ぬ

てせう。」

「あなたはあなたの生活をかけてゐらつしやるのですか?」

「知りません。何にも知らないから女優なのです。一個人の生活を

生活することが出来ないから女優なのです。ただ、それ、女の持つ

てゐる例の名譽心といふやつが私を殺すのです。」

「それほどまでに抱負を持つてゐらつしやるのですか?」

「抱負ですつて?ちつとも。わたくしはわたくしの運命を信じて居

ります。わたくしがどんなに立派な女優になれたとしても、眞實の

生活の前にははやらないかべの花です。わたくしは貧しいかへり見

られない女なのです。」

「そのやうにしてあなたはあなたの生涯を藝術に捧げられたのです

か?」

「いえ、ちかひます。もしも教へてさへ下さればあなたの足に接

吻します。」

「いゝえ、ちかひます。もしも教へてさへ下さればあなたの足に接

吻します。」

「いゝえ、ちかひます。もしも教へてさへ下さればあなたの足に接

吻します。」

め。住谷君の大なる理想(あらずもがなの!まだかこ

云ふ種類!それはそれで好いんです。偉大なる使命、

未來世界の光明が閃く時をまちませう。然し、言葉

が常に最大級で支那的なのに一寸、メン食ひます。

現在資本主義の行詰り!然しそれから無産階級の使

頭!それはクラルチの運動方法で如何なるアソブ

べせうか?」

突然群集亂入

止めろ!止めろ!止めろ!表は停電だぞ!」

消燈——幕

群集。場外に溢れ出で、叫ぶ。闇だ!まつくらけだ!

深夜だ!深夜だ!片つ端から刺し殺ろせ!

(Aハシ)

石

矢橋 公 鷹

「詩に尾をつけたるもの——
 何とくだらばいものが澤山おつてちてゐることだ
 空つぼの茶碗か！のろ／＼と歩きやがる新聞紙
 俺はどうしようもねえ
 裸電線だ！！
 塵物がよどぐれて
 印刷機が急速力で空轉する
 「お前は何を云ふか！——
 止してくれ 止してくれ
 其血みどろの言葉をな
 俺のお腹かへばりつく 風が流れて行く……」

私はこの詩が好きだ。考へて見ると餘程以前の作であ

る。それは私が早稲田近くの印刷工場に勤めてゐた頃

だ。小さい工場ではあつたが私は無智な兄弟を煽動し

して一つの階級闘争を惹起したことがある。何といつても

其の時、私は私の誘發した、そして現實として私の内と外

との生活にかつがさつて來た人類闘争の片鱗に對して

焦慮と憤激と悲痛との渦巻の中に、餘りにも無自覺な衆

生の飢渴を前にして、私の持上げた烽火は弱く且つ小さ

かつた。第一回の噴願は峻拒を喰ひ、第二回の堂々と要

求した日給三割の増額以下九割の要求案は一顧に與へ

られず拒絶されてしまつた。この要求の拒絶されると同

時に例によつて持久戦の幕が切つて落されたのであつた

裏切者!!! この場合この言葉はど私達にとつて統壹に

も優る憤激と絶望に導くものはあるまい。ギロチンにも

優るこの言葉を聞いてからの一と時、私は考へることも

なく餘り圍まれた仕事場の真中に突立つてゐた。其時新

聞紙の上に書きなぐつたのが前の詩であつたのだ。

重苦しい灰色の活字に見入つてゐた時、私はあのへと

／＼に疲れて而も憂鬱にも狂暴性を帯びた機械の齒車の

音が、何處からか私の鼓膜を錐のやうに刺したやうに思

つた。然し私達の工場の機械は決して動きはしなかつた

さうだ、私が眞の狂暴性を帯びるのは火花のやうな此の

一瞬であつた。そして教へられるともなく社會運動とい

ふことを口端に上せるやうになつたのはこれらの現實に

直面して以後なのだ。

その後私は職を失つた、けれど私は働こうとしなかつ

た。そろ／＼襲來しかけてゐた不景氣と共に働かして呉

れる工場もなかつた、私は「ワオオオ」として所謂队的

勢力の没落を始めてゐたのだ。そして實際運動へ、行動

へ、破壊へ！そうした雰圍氣が醸され出した私達のグル

ブは、雑誌第三號の發賣禁止となり、内証となり、休

止、分裂となつて表れたのであつたらう。さうして今、

私は再び重苦しい灰色の活字の中に押込められて、憂鬱

な狂暴性をよびたあのへと／＼な機械の音を聞いてゐる

のだ。あの不氣味な音と鉛筆とは私の肺に血管に隣隨に

悪魔のやうに侵略し、獸のやうな狂暴性を教唆するので

はあるまいか。然しこれらの言葉は現實の私自身を何等

裏書するものでない。クアラペライズムか。アナーキイズム

か。サンザカリズムか。將又ネオダ、イズムか。ペシミ

ストか。私は恐らくそれらの何物をも求めてはゐないだ

らう。そして私は今客觀と主觀との生活に於て、最もな

る兩極端を辿つてゐるらしい。且つ私は私自身に責任や

義務を感じなければならぬ理由が何處にあらうか？地

球は美しい。けれど人間は穢ない。豚たり淫賣婦たり昆

蟲たらずして生き得るものは、餘りにも不合理であり、

食楚であり穢かである。

三五六二三

の辭を去りては、またまた中葉の葉を引取りて、或る

處の如き、又、身纏手嚴証なソウメンチヤビ、或るやう

（な）なれば、或るやうな、或るやうな、或るやうな、

中の三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、

十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、

二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、

二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、

三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、

四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、

四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、

五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、

五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、

六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、

七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、

七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、

八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、

八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、

九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、

一百、

巖に彫りつけたる彼の葬儀の歌

岡本潤

KERA KERA KERA KERA KERA

喇叭を吹く空

NICKEL製の都會に未練をおこせば

屋氣樓めば洪笑ふぢやないか

おまへの美くしい黒髪に椰子の葉を飾り

あれのあたまには季節外れな思想の帽子を冠つて

獅子・豹・ゴリラのたぐひをしりへに従へ

南蠻製のお酒に酔つばらつて

あれはオトコらしく おまへはオンナらしく

アラビヤ踊りや 生蠶踊り

月のランタン 太陽料理

天には星ども 地には健康な臀部のジャッツ

夜がなんだい! 晝がなんだい!

暴風警報も何のものかは

沙漠を飛行し 海を歩けば

魚類・軟體類・海藻のたぐひに至るまで

PIYON・PIYON跳ねる 腔中に躍りこむ

もちろん 軍艦・汽船は空中に舞ひあがり

棧橋はどつかへ吹き飛ばされてしまつた

燈臺はまつさかさまに海底を照らす

煙突を拾つてステッキにぶらさげ

世紀以前のカミサマをアガメたてまつり

文明がなんだい! 新時代がなんだい!

狂酔・満腹・飽満・亂舞

野蠻・放逸・無智・朦昧

暴力萬能・弱者滅却

没落・没落・人生解散

デキツコナイの人造人間の自由廢業

とてもスバラシイあれの葬式を見ろやい!

島に居る岡本潤と俺の肖像

陀田勤助

俺の胸には煤煙でよごれた煙突が立つた

心臓は泥溝で醗酵し始めた

君は

島の頂上で地酒をのむて 眼鏡の奥で 腫をパツ

チリと開いてゐるだらう

鰯はひからび始めたらう

鯨は沖てのどかに鹽を吹上げてゐるだらう

だが君は

煙突から 赤ん坊が流産し 煙突の下に

毎日 墓場が建てられるのを見てゐるのだ

毎日 あのコンクリートの壁には 女工の心臓が

ぶらさげられてゐる

毎日 あの工場の入口で幼年工の腦髓が歪られて

ゆく

煙突の上を スイ スイ と白い雲が遊んでゐる

雨が降つてゐる

風が吹いてゐる

太陽がころがつてゐる

昨日も

今日も

明日も

俺らの小さい憤怒は

二噸車のトラツクに轢殺された 瓦斯ガラだ

朝から胃袋をみたさない私の臭覺は

犬のように腐つた肉片を欲してゐた。

何て幸福なんてせう——

小説を大分讀んだらしい若い男が

叫びながら

破れたナツバ服を振つてゐた

上野廣小路のあの廣い道を

蟻のような列をくんで

労働者が歩るいてゐた

君は片手にゴールデン・バットをよかし乍ら
永遠に動かない海を嫌悪してゐる

貧乏神

林美美子

明日の日に困つても

私はまだ私全部を投げだしたくはない

ころがしよう一ツてサイの目だつて

一と六との勝負があるではないか

食へないで死んだとは

まことにもつて一寸九分の貧乏神に

相すみませぬ

何と楽しみな浮世でございませうか

犬になりたい

上野廣小路のあの廣い道を

蟻のような列をくんで

労働者が歩るいてゐた

——俺たちは馬ではないんだ!

——俺たちは犬ではないんだぞ!

小説を大分讀んだらしい若い男が

叫びながら

破れたナツバ服を振つてゐた

何て幸福なんてせう——

朝から胃袋をみたさない私の臭覺は

犬のように腐つた肉片を欲してゐた。

何て幸福なんてせう——

小説を大分讀んだらしい若い男が

叫びながら

破れたナツバ服を振つてゐた

何て幸福なんてせう——

朝から胃袋をみたさない私の臭覺は

犬のように腐つた肉片を欲してゐた。

前額と顛額に鋭い重壓を感じて 髪解き舌嘗める畸形兒

溝 口 桐

目玉のつぶれた魚が

ユラ ユラ と 行商する夜

痔せ狼の屍肉に噛りつくやうな憂鬱が

齒だけ白く 笑つて

夜通し蛆蟲を勘定して

奴は灰色の布で陰部をかかす

安逸と便宜とを目的とする非社會的傾向の

誘致——

對角線が

ジョキリツ と俺のアバラ骨を噛んで

直線の星が脱糞した鳥をつささした

●●● 卑屈で醜惡で 狡猾

とにかく飢餓だ

飢餓

ウドンが一本盲腸を流れてゆくごまだ

草叢はひろい

赤蟻は俺の耳を巣だと心得てゐる 無力な鼓膜の

水腫れ 硬く麻痺した酔つ拂ひめ

坑内は心臓を隠した媚だ 熱 熱カンテラ非人

的物品●手巾●乳房●帽子●跛●聲の響き●

臭氣〔新聞 號外！號外！

排泄物 號外！號外！

永遠の堅坑を打ち切れ

インクラインが眞倒様に 奴等も皆んな手—無

生物—露出—攀ち上る光景—

下着—毛—

手袋●足

臀部

「分泌物—

揺れる光景

黒土を粘ろ

痙攣した焰が

~~~~~ ペロ ペロ

妊娠した生命を粉碎さるゝな

能動蠢惑は不可避なのだ

搾岩機▲斜視●痘痕— 飲酒

警報器●●● 壓搾空気を送れ

爆破●●●

即時

倒錯

第四の斷定

幻に疲れる悔恨をぶちさすのだ

悪寒に硬固する唇頭の刺戟

▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲

▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲

▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲

二五、六

## 正雪の冷笑

野村吉哉

「ボカ〜とよい氣持じやワイ」

暖かな春の陽を浴びて

正雪は椽側に寝ころんでゐた

……その日向ボッコの最中である

「エイ！」

突然、背後より斬りかゝつた曲者……

正雪パツと空をうたせて

よろめく相手の腕をつかんで投げとばした

「しまった！」

空中で二三回クル〜廻つて

ひらりと庭石の上に立ち上つた曲者

「残念……」

彼は印を結んで呪文をトナへた

……と、不思議なるかな

その姿は霧のごとく消えてしまった

「忍術で逃げたナ……いづれ

伊豆守あたりに頼まれたドブ鼠

……馬鹿モノメ！」

正雪はつぶやいて

テへ、テへ、テへ……と妙な笑ひを洩した。

## 石田三成の落膽

「松尾山に陣を構えた金吾秀秋

彼はいま雁行に備えてはゐるが

あいつが俺の心配の種だ！」

南宮山の岡ヶ鼻なる本陣で

三成は躍起になつて氣をもんでゐる

「使者は未だ歸らぬか！」

彼は立つたり腰をよろしたり

幕の中を歩き廻つたりしてゐる

「秀秋殿の先陣が動いてゐます」

「八門遁行の構えに變りました」

「山を下つて大谷刑部の陣へ……」

「味方は敗亡だ！」

彼はベツタリ尻もちをついた

傍にゐた島左近が

あはてゝその腰を抱きあげた。







真空中に於ける光の速度は光波の波長に關係なし

エペルト

橋本健吉

赤電球 ↑ 緑電球

白電球 ↓ 黄電球

黒電球 ↑ 青電球

青電球 ↑ 黄電球

黄電球 ↓ 白電球

緑電球 ↑ 黒電球

P I K O O P I K O O

P I K O

P I K O P I K O と

イヰミキョシヨ七月の夜

K I R O R O K I R O R O と車に乗つて

香水美術博覽會も

齒車仕掛けの眼玉てながめ

シボ玉のカツプや

風船玉のスクアに酔つて

何と愉快なゼントルマンが

銀座の舗道を散歩する

P I K O R O P O R O P O R O

P A P A R A R E P A P A

3 5 5 5 5 5 5 5 6 5 3 5 6

1 2 3 5 5 6 5 3 5 3 2 1

1 1 2 3 5 3 5 2 1 6 6 5

1 6 1 5 5 6 1 2 2 2 2 2

ラッパ仕掛の節々もしろく

歩調をそろへて夜店を讀へ

ブッキ細工の曲藝玩具

1 7 7 S E N 2 つて I O S E N

(愉快な計算たね)

坊ちやも買へば嬢ちやんも欲しい

私も買はす

伯父さんもお金があつて

家へかへつてお米を買つて

あまつたやつてお酒を飲んで

P E K O R E P O R O P O R O 踊るだらう。

家庭圓滿・富国强兵

軍艦も大砲も澤山きて

美しき未亡夫人は今日もまた

大正琴を弾きて遊べり。

秋

富田常雄

ちつ母さんのでこぼこの寝顔に  
黨所の流しもとて啼いてるこほろぎの鳴き聲がぶつかり

てるよ

とんとこ、とんとこ秋雨が縄に太鼓をたいてるね

電氣の下で調べ上げて投げ出した財布が机の上で陰氣に

鳴るよ

朝の電車はこびんだ、さけの様にぶら下がらうよ、い

ゝ女を二人づゝ見るよ、

毎朝、太陽は冷たく光るね、毎朝――

「ラッシュ、アライはこみ合ひますから、他の時間を御

利用下さい。

他に頬をつけて冷たくねたいし

朝の省線のあみ柳に横になりたいし

陽の出からラッシュ、アライ――

人間、人間、人間、人間、――肥つた奴が金貨をかん

てる

七階から下りるエレベーターの繩は明日切れるかも知れ

やしない

電氣が明暗をつつて

時計の針が重つてるよ

やせた大男にやせた女が抱かれてる様にね

とんとこ、とんとこ秋雨の大鼓に

ちつ母さんのでこぼこの寝顔の上で蠅が一匹調子づいて

あっているよ

机の上にひしげた財布は――

ちつ母さん、あした夏服を畳屋へ持つて行かり

手遊道具はそっくりさ

柳川槐人

●サボン玉が消えたとて言ふのかい

○流産したのはネクタイだからと言ふのですか

○そりや時代遅れてしょうが

●ケツして○起したのは神羅のSEIではなかつたので

○みんなソビリ出された○蟲の自殺なんてすよ

○チモヨカツタワ

●垂んだネ ○ 弱サ

●それは俺にしても毫氣な出来事なんだ

◎おしなべて計算器だといふの

○鈍力人形がY O G I K U R E T Aといふのかい

○それはそれにしても

●驚き給ふなヨ

●トウトウ貼られちやつたんだ

●臺所便所 T S U K I

●手遊道具はそっくりさ



びるであらう。が併し、藝術の本質論程世に愚劣なもの

は又とあるまい。  
百萬燭光下に轟き渡る機械の騒音、その騒音の副産物たる殺戮戰爭掠奪、その怪奇に至んだいまいし聲帯と相貌の主人何億萬の勞働者、その魂は路傍にさらされた「死んだ鼠」の如く惡臭を放つて道行く人々の寒感をそそる。

没落の手淫派はこれをすら尙も劇場であると言ひ得るか。もし劇場であるとするれば、我々自身はこの劇場の一隅に捨てられた「鼠の屍」であり、豚の糞の如きものである。

死んだ鼠? どうして死んだ鼠であつてタマムか、何故人間であつては、人間であらうとしてはいけな

いのか。  
劇場革命論の根源、即ち此處に出發する。以下は述べる迄もない。何故つて、斷えず巷間に傳へ聞く常識的な

結着點、革命論の繰返しに過ぎないからチエツ! 未だ何か咽喉につかへてやがる) そうだそうだ、劇場をクソクするに限る。劇場をクソクする爲めの芝居! それが欲しかつたのだ。舞臺監督の指揮棒をボキ折つちまへ!

そう言ひたかつたのだ。  
お! ツと、ちよいと待つて呉れ! いくら劇場を打つ壊したつて、舞臺監督を撲り殺したつて「死んだ鼠」は依然として死んだネヅミだ。豚の糞みたいに地べたにへたはら

ついて干乾びて行くか、壓し潰されて消滅するだけだ。それぢやタマハらねえ!—と言ふ所から即ち此處に懸懸前が起つた。死んだ鼠の復活祭をおつばぢめやうと言ふ段取り(首尾よくまわりましたら御手拍子喝采!)と

ろちやねえや、サツキの停車場の問題、即ち停車場と一大民衆劇場に於きまして一匹の死んだ鼠が世にも奇しき大活劇を演じます。

●此處で作者暫時休息。諸君も中食なりとすまして気分交換の上御覽あれ

## 停車場と死んだ鼠

(ストーリー)

この目々苦しい變化を完全に捕捉することは、例へ、手に密に組立てた舞臺模型を眼前に置いてあつても到底不可能である。であるからほんのストーリーだけだが、それに少しばかり化粧をしてカクアツて説明してゆきます。

暗く冷めたく静かな劇場、劇場外の騒音が微かに窓より潜び込む程度、一時——相當沈黙のまゝ経過。

先づアンテナ・ボックスより懐中電燈が平直に天井に放たれ、其處に列車の影が寫る。列車の影が客の頭上より後方を向いて進行し初めると同時に舞臺下より客席の下を傳ひ客席の後方から劇場外へと、列車の進行音が起り、影が消えてより三十秒の後その音も消える。

今度は後方より影現れ、音響起りて前回同様のエフェクトが繰返へされる。續いて三回往復し、三回目の影が

## 別名 1. 豚騒動への序幕的構想 別名 2. 劇場及劇演革命論の迷走神經 別名 3. 夜明け前の混沌と靜寂速記

岡田 龍夫

「オキ第五號に近刊戯曲集「夜明け前の混沌め」の豫言があつた。同じく附録として劇場及演劇革命論と書いてある。今私が述べて出さうとするのは、その迷走神經であり、且つ、本體に近寄らん爲めの序幕的構想である。我々の劇場並に演劇は全く悲しむべき状態にある。各國で代表的な劇場と稱されるもの、例へば日本の樂地小劇場、柏林の民衆劇場、紐育のシヤター・ギルド、ロシヤのカアマムス、佛蘭西、伊太利等に芽生る梅雨期の新興劇場の凡てに於て、敢て言ふ。

全く君達は駄目だ! トチモ未だ未だ。何故かつて君達は停車場に成れないうちやないか。世界に未だかつて停車場に輸入劇場は出来てゐない。今後と雖も永久に出来得ないであらう。私は停車場の一隅に突立つた時程の感銘を、未だかつて如何なる劇場に於ても覺えたことがない。停車場には斷えず汽車電車自動車が蠢動する。電信電話は事件をして一瞬間に移動せしめる。夜明け前からは夜明け前まで大音楽、サクソフコンストラクタツクに依つて深刻極まりなきオーケストラを續ける。

舞師も斷えない!—そのランプの早さは機關車以上である。(停車場に來たら誰だつて飛行機兼用機關車の出現を夢見る義務がある) ●次に續々として展開される悲、喜、活劇。それから造型美術家とか新興詩人とかぬかして威張つてゐるお河童族の樂屋落になつて氣の毒だが、建築的要素、機械的要素、音樂的要素は皆此處に備はつてゐる。綜合的ダイナミズム、構成的ダイナミズム、その到底想像することも感應することも出来ない。

巴里停車場の設計や模型及施設位置を考案して天下を震がせしめんとした敬雄雄君と雖も遂にツアラストライアンと共に「嗚呼! 宇宙は一大劇場である。作者は天の一隅に身を潜めて人類を撰る所の惡魔的魔法師である」と嘆かねばなるまい。併て、謂ふ所の舞臺監督こそ謂ふ所の資本主義社會制度の別名であると言ふことは此際八萬倍位の高めて叫ぶ必要がある。

藝術家と神秘的魔界の偶像から命令を受けて實生活の上に君臨した資本主義的舞臺監督こそは我々が撲滅を期して止まざる専横者の權化即ち破壊の對象ではないか藝術家が自然科學の一理法に依つて伸縮し流動し轉廻し豹變する震氣機又は低氣壓の一種に過ぎないと言ふことは既に證明されてゐる。趣味又は裝飾品としての最後の存在理由、それすらも時代の推移と共に當然破滅すべきである。とは言へ趣味又は裝飾品であるからには立派に獨立した或る絕對性を供へる故に、永久に形骸だけは止

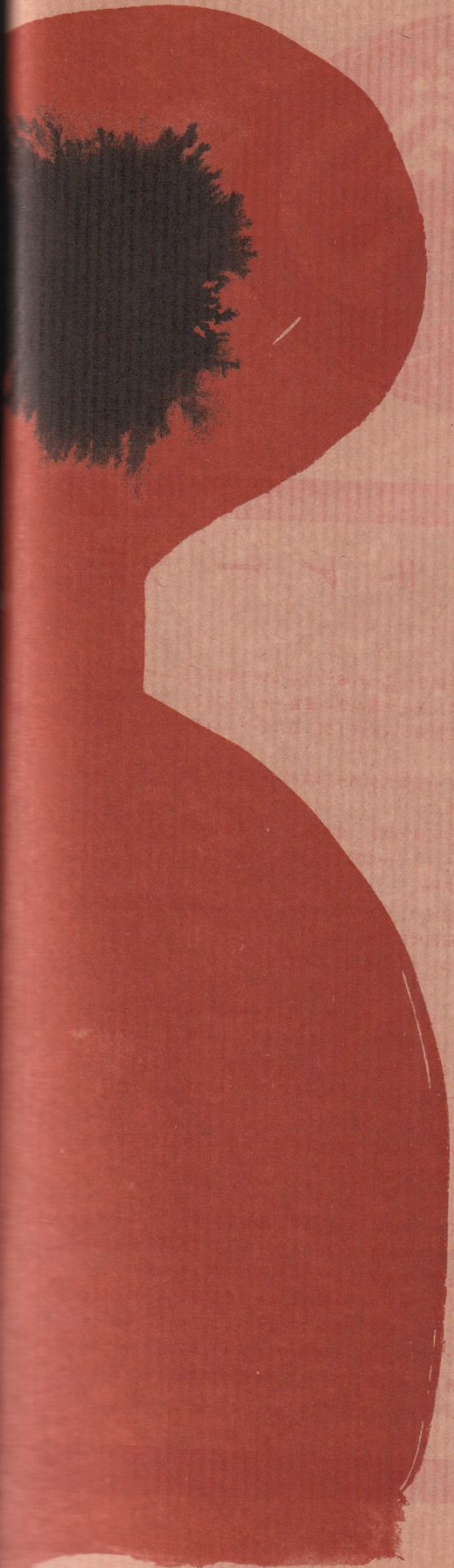






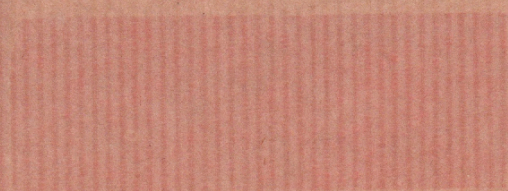






Faint, illegible text is visible in the background, appearing as a light red or pinkish hue. The text is arranged in several columns and is mostly obscured by the other elements of the design.







### 崖上の天國

壺井 繁治

蟻のやうに崖を這ひ上る！

男と女！

彼女と俺！

お前は誰だ？

夢の中の女！

眼もある、鼻もある、口もある、心臓もある。手を握らしめると確かに温い感觸を持つた一個の生物だ！

「どこへ行くんだね、俺達は？」

「さあ、どこへ行くんだか、わたしにもよくわからないわ、ただ、これを見れば、登つて行くと、何だか天国へ行くやうな氣がするの……」

馬鹿！天国なんて、泥靴で踏みにじつてしまへ！あくびでもしやうぢやないか？

空は暗い！

太陽がない！

メクラの風景だ！

だが、俺達はこの断崖を登るより外に道がないのだ！工場から牢獄へ！

同志は無数の拳を固めて怒つてゐる！

心臓に剣を突き刺された男！

俺はもう何日も飯を食はない！

「お前はブルジョアの娘ぢやないか？」

「わたしはブルジョアの娘ですつて？ 手をどらんなさう！」

突き出された手！

確かに指が足りなひ！

機械に食はれたのだ！

煤煙にすすけた顔！心臓まで真黒だ！

「急ぎませう！もう始まりますよ！」

「何が？」

「同志の大會が！」

「どこで？」

「この崖の頂上で！」

「よし！急がう！」

また蟻のやうに崖を這ひ上る！

果てしない断崖！

脚の中へ崖が崩れて来た！

へとへとに疲れた！

胃袋が石ころのやうに干からびてしまつた！

どこに絶叫があるのだ？

どこから怒號がきこえるのだ？

太陽も見えないぢやないか？

■旗も翻へらなぢやないか？

「もうすぐよ！すぐ頂上へ來ますわ、さあ、急ぎませう！」

「う！」

女は俺の手をぐいぐい引張る！

遂に俺達は頂上へ達した！

天國だ！墓場だ！いや、工場の入口だ！

受付が黒い喪服を着て立つてゐる！

「行かう！あすこまで！」

煙突から真黒い煙が吐き出されてゐる！

煙突の中から怒號がきこえて來る！

進め！

壊せ！

奪へ！

「この中へ這入つちやいけなひ！」

受付が制止する！

「なに、かまふもんか！これは天國の入口ぢやない！」

「こちら！這入つちやいけなひ！」

受付が怒鳴る！

「かまふもんか！これは地獄の入口ぢやないか？ 俺達同志の屍を曝らしたところだ！首を切られたものが集まつて呪ひの聲をあげるのだ！」

不意に力強い手が俺と彼女との間を断ち切る！

固い扉がガチャりと鳴つた！

俺はいつものまにか牢獄に！

窓がない！

眞暗い地下室だ！

泥靴を踏み鳴らせ！

手がちぎれた！

足がちぎれた！

首がちぎれた！

心臓が真黒い血の塊となつた！

煙突は地獄の底から突出した墓標だ！

機械が廻轉する！

工場が唸る！

進め！

壊せ！

奪へ！

一つの心臓と一つの空間！

一瞬に爆發しろ！

最後だ！

一九二五・五

○よまへてに地ひなて登突峰は一日断崖の頂上へ  
いそよそとて舞臺を越えて登突峰のまにけなふと地ひなて登突峰

二つ番の断崖風景



## マヴォ第五號合評

どらねこ。  
其他群集多勢

群集A。押すな押さない！やい何しやがるんだい  
バカ！鼠のシツボめ！

群集B。おい、いやに薄つ暗えちやねえか。おま  
けにこう狭まつくるしくちやケツの穴も耳の穴  
もふさがつちやふで、ああ俺は苦ししい。

群集C。幕を開けて呉れ！この體臭はやりきれね  
え。

群集D。あいた！あいた！幕があいたぞ！オヤ、  
變な奴が出て來たぞ。私はマヴォ第五號でござ  
いますつてぬかしやあがるぞ。何テエ奇妙な面  
をした奴だ。

ど。ヘエ、表紙の寫眞はだにのやうな村山の知的  
かい。マツチ棒を三本おつ立て、煙をのたくら  
せて、はあこれさ當今流行いたします構成派  
の舞臺装置でござい！チ、ンドンドンシヤン！  
ら。え、ぶたて御座い、豚て御座い。豚なくて  
何んの我等がマヴォかな。豚なくては夜の明け  
ぬ長隆舎。はい、豚の世界が展らけましたよ。  
ね。ニキビ不良少年の集團か！このゴミのやうな  
活字が詩だとぬかすか！このコマケエ奴等は豚  
になれねえ不具物か！ウフ！臭へ！詩だと云ふ  
か！

こ。クシヤクシヤとノミのやうなものがギシギシ  
につまつてやがる。これを讀めとは無慈悲だね  
俺はいいとしても、俺の細君がかあいさうだ。  
マヴォ一冊五十錢、但しトツカピン附きとでも  
してくれなさい助からねえ。

ど。お断り、發句の會の幹事長戸田達のリノリュ  
ームシユットの題は「聖きは少女なり」であり  
ます。それからもう一つミスプリントのあるの  
は皆様の御退屈凌ぎのためにとの心づくしてご

ざいます。

ら。泥棒にも乞食にも野良犬にも等しくか（にも  
なれないのか）汝等マヴォオオストめ、お前さん  
等何んとエラそうなことをヌカしたつて未だ未  
だ繪さんだよ、ヘッへ、しやら臭えや！

ね。「新らしき豚の飼方！」利殖の早みち「實地豚  
の飼方」この言葉をドイツもドイツもの上に浴  
せかける。吉田の謙吉さんの「糞蟲の妻」これ  
もトツカピン附きと同様、新らしき豚達への一  
つの贈り物として差し上げやう。

こ。詩つてえものもかうゴテゴテとつめ込まれち  
やあ一向アタジケネエもんだなア。かう云ふ連  
中が數多くあるといふこと、これが一つの豚的  
勢力です、たくさん、たくさんあるんです。か  
ないつこはねエヤ。

ど。河童の龍公（岡田・矢橋）にしろ何をぬかして  
ぬやがるんだい。何ッ！表へ出ろい！大體「L A  
L」なんて蚤の學丸のやうな文字を拾ひ集めや  
がつて、畜生、俺は面白くねえんだから、おい  
南京蟲の兄弟分、た、かうせ、タ、カウゼエ！  
ら。ドン・ハセの「第Nプラスフニヤフニヤ創造」

つてのはまあ、一體何んのこつたかさつばりワ  
ケが判んねえや。哲學辭典か漢和大辭典の中か  
ら好きな文字だけかき集めて羅列したいのぢや  
ねえか。橋本、村山、壺井諸君の小説これがま  
た例の新感覺派とも言ふのかい？何しろ理智  
にハヤル若者共の小手先の遊戯ほど面にくい奴  
はない。新興マンネリズム。新しがりの邪道だよ  
ね。澁谷修よ。ぐるぐるぐる廻れ！廻らなければ  
ならないでせうか？疑問ぢやないのだ！進行！  
進行！大速度！ボヤ／＼するな。

こ。悪口云はれたつて氣を落すなよ。ニイチエの  
名文に依ると「そのピアノを絶望的に泣き立て  
るまで苛虐するところの、又最も陰鬱な、最も  
暗褐色なハマモニの泥を、手づから自分自身

の前に捏ね返すところの不幸なる若者。」かう

いふ若者が近頃の流行なんだから仕方がねエ。  
悪口をいふ機械が悪口を云ふのに何の不思議も  
ねエ俺達が悪いんぢやねエ、こんな不出來な機  
械をこさえた工場が悪いんだ。えらいニイチエ  
はかうも云つてゐるんだ。「破壊に對する、變化  
に對する、生成に對する願望は、過剰な、未來  
を孕んでゐる力の表出であり得る。しかしなが  
らそれは出來の悪い者、貧弱なもの、癡疾者等  
の憎悪でもあり得る。それは破壊する。そして  
破壊しなければならぬ。なぜならば持續する物  
が、否總てのものが存在すら彼等の氣に觸り、  
彼等を憤激させるからである」つてね。俺達は  
その事をちやんと知つてゐる。だから此點みん  
なあきらめられ。會つたら握手する。その上唇ま  
で舐めてやる。だが手前は癩にさわるんだ。

ど。「こ」はいやに長いことしやべりました。私は  
もう失禮して灰色の夢でもしやぶり乍らぬるこ  
とにいたしました。ばアかだよ。

群集A。觀客の芝居だ！淫賣婦だ！脱獄囚だ！大  
日本殺人同盟だ！か？

ら。嘘をつけ！白色テロだよ、出來そこないだよ  
俺達も貴様達もアク迄トノワざる破れたる。  
狂ひかけて狂ひ得ざる、壊れかけた機械さ！。  
進め！癡人等、猛れ！惡魔等よ！破滅する者に  
變りはない。

ね。糞犬大鑑・馬四外貌學・と云ふ本が長隆舎か  
ら發行されています。先づみなさん御覽下さい  
私はそれだけ云へば、もうたくさん！

群集A。やかましい奴等だなあ！下らねえ。引つ  
込めなぐるぞ。バカ！馬の糞！

ど。はい／＼。かしこまりました。  
群集B。ざまあみやがれ！  
う。はい／＼。かしこまりました。  
以下二十三頁續く



それがどうした

新島 榮治

私はふと こんなことを心づいた。  
俺は一體何歳になつたんだらう。  
つひ俺は俺の歳を忘れたよ、  
幾程なんだらう。何歳なんだらう。  
そんなことはどうでもよい。  
そんなことはどうでもよい。

それがどうしたといふ譯だ。

ふと心づいた 母から聞いた言葉だ。

母が二十四才の時 父がそれより四つ歳上の時  
どうしたハヅミか俺を製造したのだらうだ。  
それがどうしたといふのか 俺は知らない。

けれど母は頻りに氣にして手探りて俺の頭の中に埋め  
て行つた。

あの鎌菅茶の顔の中から母はそれだけ、  
俺への唯一の土産に置いて行つて呉れた。

それが別に有り難くもないけど、  
俺が記憶して生れた子供達が、

俺を生んだ母の歳も 俺を生んだ父の歳も風車のよう  
に追ひ越して居る。

今日が日迄俺は死んでしまひばよいと  
幾度思つたことだらう。

それよりも生れなかつたらさぞよかつたらう。  
俺の歳なんぞ何歳でもよい。

うるさいことだ。

そんなことを考へることが、  
噫何も思ふまい 何も考へまい。

黙つて居たつて成るだけにか成りやしない。  
何程あせつても出来る丈けのことも出来やしな。

鼻高々と吹ふことは辭めやう。  
俺の車も静かに廻つて居る。

一九二五・六・一八

幻聴と樵夫

角 田 竹 夫

ざつぐ ざつぐ ざつぐ

鋸の響き

大木の腸は黄色い呻きと血反吐だ。

齒が向ふへ……向ふへ……

ざつと破れる構肌

……樵夫よ

不運な奴よ

何時まで鋸と心中するのだ……

妻も子も鋸の齒の下でうごめいてゐる。

朝つばらから腕と鋸の並行  
並行線……  
何時になつてもままとまりもない人生  
ぐわーん ぐわーん  
幻聴！  
——生意氣な樹よ  
相手よ  
えつ 裏切者奴等

殺すぞ！  
殺せ！

わう山火事 山火事！  
靴音 劍戟  
血で身ぶるひしてる鋸  
狂人だ！  
逃走した一人の樵夫

註、幻聴とは樵夫が作業中耳に響く錯覚作用

少女は麗しく

セピアの髪は猶太製だ  
散歩は人形が同伴で  
波止場の波の見えるところ  
少女は麗はしく散歩する。  
——海濱の此小詩よ  
少女は黄金と紅と緑のまどつた元氣な服を着て  
歩む足の直線のところに  
わう帆前船を見るのだ。

少女は麗しく  
が急屈と香料と  
歪んだ電柱と  
ふりまかれたたぬやかさに  
一層麗はしく歩する  
リボンを結んでやる少女はこれだ。  
モザリヤニの少女のやうに  
抱擁と自發の爲の少女だ。



# 暗夜をさく男あり

興野勝郎

炬燵の中から大膽と度胸と技巧が出席した。  
古綿から露出した人間の魂は分裂だ。  
さらさらと光にとけ散つても

ああ魂は香料を放つ！  
感激に魅惑されるのだ。

僕の人生観に何らの色彩もなす。  
夜の市街は狂氣に塗布され神経中樞衰弱は靡  
亂に行くのだ。

リンゴの腐りを味はない自我は成立しなす。  
帝劇に放火したといふ理由によつて  
僕は感情の一分野を抱束された。

ポツ！ ポ！ ポ！ ポ！  
暗夜をさく男あり。

女は暗夜にかがみ込んで猫脊となる。  
汽車を破壊しかねて僕は出京した。  
炬燵に女を抱いて宇宙を生む。

何ら神秘的の効果ありや。  
細胞分子奴！

## 笑はふ會宣傳

三 章 本 級

笑はふ  
笑はふ會を開かうぢやないか  
一度にみんなが聲をそろへて  
ガラガラガラガラ  
ガラガラガラガラ  
笑ふのだ 笑ふのだ  
笑ひぬくのだ  
な、おい！ ひんまがつた ひさちぎれた  
顔の持主ちよ賛成してくれ  
一、會場——享樂の銀座尾張町十字街頭  
一、日時——世紀の斷崖1926年米の價の高い真  
夏白晝  
一、會費——無料だ(もとより無料だ)  
但、もし腹が空いて胃の腑がギリギリ  
痛み出したら  
道路の水タマリの泥漿をすゝつて  
散らばつてゐる古新聞紙もゴリゴリ  
かぢらう  
そしてどんなに腹が立つても  
決して暴動を起さぬこと

世話人——失業者マツモト、ジエングー  
同 ——淫賢婦おタマ、おキン、おハル  
同 ——立ちん坊無姓の親公

以上、ガラガラガラガラガラガラガラガラ  
合掌 静かなる

暴風！

無期徒刑・青天白日下の無縁佛  
斷頭臺の刑務所だな  
混沌時代だ  
蠟燭だ蠟燭だ蠟燭だあゝ提灯の蠟燭だ  
提灯だ提灯だ提灯提灯提灯提灯  
生きた人間の提灯行列だ  
素敵に長い提灯行列だ  
光明の一步前の連續だ  
ラゾオ ラゾオ ラゾオ  
悲惨な笑でせう  
ちやそれは何と不思議な

煉瓦塀を出はされることの出さない男だ  
驅けても 驅けても  
メリーゴーランド  
彼女は泣いても泣いても泣き足らない涙の泉だつた  
驅けてゐた 驅けてゐた  
それを夢見乍ら驅けてゐた  
それを夢見乍ら驅けてゐた  
血ダツ 血ダツ 血  
火星の霧の混沌だ  
驅けても驅けても驅けても  
絶縁された煉瓦塀は俺とは縁のない所だ  
深い 深い 霧の火星の風景だ

齊藤メリーゴーランド

大







嗜血もコライアルと共に飲んじまへ！赤爛れの目鼻口  
脳髄……癩病のブルジョア共！糞壺にたゞき込まれる  
うな食乏人共！へツエ

狂人 徴徴徴徴ヒ、、、フ、、、フ、、、  
乞食 ばあが ポーポー ばあが うまい おま  
まい ウィウー エ ばあが 地球でな おま

死 人 5 八歳残 信女 「人生の悲劇」不知強○絞殺  
病 病 リー！ 吊 辭

死 人 6 世界の 世界の 墓場から 墓場から 戦死者  
同盟の 白骨隊が 喇叭を 復讐の 喇叭を 吹きます

病 何んだ 病だねこの 芝居は……

乞食 強盜 殺人 脱獄 謀殺 強姦 自殺 誘拐 惡  
疫 惡魔 革命 盜人 火藥 毒藥 あらゆるこれに

類する 狂人の 大會がこれから 開かれます 宣言 決議  
具體案 モルセネうまいよ ばあが ばあが おま

存髓病 直！うまいか  
い ヒ、、、ポー ばあが 革命うまい

乞食 「これに類する 狂人うまい みんな食ふ ばあが  
おまひ！」

骸骨 陰慘な 静寂がよろめく時 呼吸は 停止した おい 慘  
虐た 慘虐だ！

脱獄囚 脱獄！ 彼の 右腕は 鎖と共に ぎとられてしま  
つた！ 見ろ 血だ！ 土色の 皮膚を 生温かい 血がたらた

らと 大地に 吸はれて 行く。 彼の 肉に、 心臓に 骨に  
歯を 喰ひし ばれ！ ちやう 傲然と 錐の 尖端が ぞりぞり 上

……もつと 狂暴に 深く もつと！  
毒藥 墓場 の 陰に 潛む じす 黒い 謀殺 の 共犯だ 暗紫色

に 膨れ 上つた 彼女の 屍 俺は 以前の 唇に 接吻する。 俺  
は 以前の 乳房に 滴く 蛆蟲と 膿汁を すくる！ 慘忍 慘

恐が 最後の 復讐だ！ 凱歌 なんだ！  
チアス 眞暗な 闇だ 眞赤な 蜘蛛が つかぶさつてく

る 巨大な 蜘蛛 くも  
コレラ 人間を あのに のやうな 人間を おい！ じめ

じめした 屋根裏の 惡魔よ 侵略しろ！ 脳を 血管を  
逐放しろ！ 呻吟の 灰色の 咆哮の 病院へ 惡魔

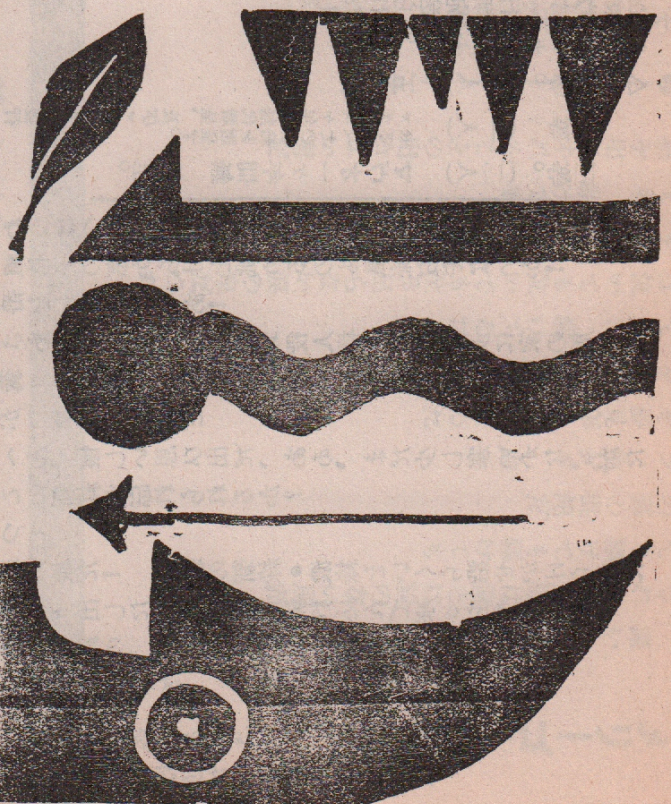
人間を 人間を 人間を 侵略しろ！ 逐放しろ 太陽から……  
死 人 2 ピシモー！ 何處へ 行く お前の 着物は 上が 白

くて 下 黒い として その 黒襦袢！ 私 は お前を ピ  
シモー お前を 愛して ゐる。 どこへ ピシモー ピシ

モ！……  
自殺者 我組合中に 於て 侯爵 令嬢 夫人にして 既に 昇天し

たる者 二百三十 萬人 豚！ との 混血兒 猶と ○○ したる  
者 牛に 接吻を 興へたる ことにより 生命を 取止めたる

者 總計 僅か 二十三人 なり 最近 某紙の 懸賞 當選者 の 發  
表は ヒュウ ナイズ トリア マルズ て なくして 「獸化さ  
れた 人間」 に関する 論文 であつた 治體 解剖！ 捷利  
それだ！  
醫師 おい 助手 人類は 滅亡だ！ 救はれない 十字架は何



矢橋公應

病

1

乞食 地球は 疾病で つち上げられて ゐる。 ウツツ  
ばアが！ 太陽 ウツツ 惑星 微菌だアよ ばあが  
！ウツツ ばあが お前！ ポーポー ばあが！ お

まい  
存髓病 直！うまいか 血膿は ヒヒヒヒヒ直！ その 類  
魔的な 色をした 血膿は な、あの セルセラの やうな、

P・V 伯御令嬢の さ……  
乞食 うまい ウツツ ばあが おまひ！ おまひ！ 人間  
なんて 微だあよ ばあが ウツツ うまい

肺病 お前は 何處から うせた！  
死 人 1 三千の 子分を 目玉一つで 右と 左に 使ひ分けた 海の

樞樞も、 貴様にお 負けた。 潮風に 一人 倍勝らん だ俺の  
肺も 貴様の手ちや 氣味よく 岩に たゞきつ けられた んだ

死 人 2 私は 象牙の 塔に ア、 詩人です。 そのま  
ま 血を 血を パア 十字架 詩人 して した 詩人！

死 人 3 私は 女です の、そして M 社長 の 娘なの 私は 美  
人です 私の 處女○は 随分 磨滅 しました それだけ 男の

人は 輕蔑 されたので す 可愛らしい サタン！ 私 は お  
なたの子 でした わ、わ、わ、ねを 肺病 さん！

死 人 4 俺は 梅毒 衝心で 狂氣 した 馬子 の 千公だ どのつ  
このつ の 見境は ねえ 成可く よさそう な 有産 階級 の 女

郎つ子 を 取捉ま へて 眞裸に しちや 猫族の やうに しがみ  
ついで 血を 吸つて やつた へん 嬖奴 殊勝に 腐爛

した を 吸つた だ 青白い 詩人 の 肺病 奴！ 一滴の







高見澤路直

防腐劑を煮込んだ木煉瓦が、廣い街路一面に敷き詰められ、兩側のビルディングも幾層のツッペン造り、どの窓もどの柱もどの横丁のどの家も、悉く木煉瓦建築で、高サを競ふ様に空に聳へ立つて居る。然も木煉瓦には決して二つの色彩はなく、常に何處の異までも、同じ色で積み重ねられて居る。道路の兩側の街路樹までが、其幹はハツバネ木煉瓦、そして風が吹くと木煉瓦の葉が柔らかに揺れる。朝でも夜中でも、此の街路樹の茂つた樹影を散歩往來する人間も、亦木煉瓦であることに何も不思議はない。

ボギー式六輛連結の木煉瓦の市内電車が、纏る様な交通機關の中を何よりも早く疾走して居る。

乗つてゐる客も運轉手も、皆木煉瓦だ。商店のサインボードには、何所の店でも、木煉瓦を飾つてある。繁華な交差点には、木煉瓦の交通巡查が直角に腕を振り廻して整理して居る。

大ビルディングの間から、高架線が現れ八十輛連結の特急が走り去る。木煉瓦の汽車が木煉瓦の線路の上を走るのだ。

撒水自動車(給水所)に勤務して居るBと言ふ木煉瓦の人間が居る。街の廣場の何處からでも見える。會議場の素晴らしく高い塔の木煉瓦時計は、十六時を示して居る頃である。Bは街を歩いて居るのである。十八時にもう一度水を撒かなければならない。彼は歩きながら空を見上げて。青々と澄んだ空に喰ひ込む様に時計臺が聳へて居る。時計臺の下の方から今に湧いて來そうな白い雲も見えた。

五階木煉瓦美術展覽會。

拾一階木煉瓦舞蹈公園。

拾二階エースラント講習會。

エレベーターが満員なので、Bは垂直な梯子で拾一階まで昇つて行く途中、五階の展覽會場で休むつもりで木煉瓦人間が、不器用にガタガタ歩いてる中を一緒に繪を覗いて廻つた。

プログラムの拾七番に「港」と言ふ大きな壁畫がある。波止場、棧橋、汽船、荷物、みんな木煉瓦だ。殊に棧橋は地平線の彼方にまで延びて、外國の棧橋と連絡し外國から貨物自動車で木煉瓦を送つて來たり、外國まで散歩に出かける木煉瓦人間が歩いてる所などが描いてある。

近景には木煉瓦の道路、漁師街があり、岬で滑えた木煉瓦山脈の一番高い部分に、落日が餘光を残して居る。黄昏だ。港の街の木煉瓦路を行く中頃に「カフエー・モウレンガ」のラタンを出したカフェーがある。夕燒の空に赤く照らされてBはカフェーの方へ歩き出した。六階建のあまり大きくないカフェーで、入口は屋上にあつた書いた看板が出て居る。屋上の入口へ行くために、家の周圍をぐるぐる廻りに階段が付いて居て、屋上にはバラゴラスやシェルマンやの花が珍らしく咲き亂れて居る。

珍らしい草花の間に二十間位の穴が明いて、地下室まで一直線に通じて居る。此家へ這入り度いなら、必ず幾十尺の深い此穴から地下室へ飛び下りなければ、他に這入る方法はない。木煉瓦の人間は此穴から飛び下りて酔ふことを樂しむのである。Bは其の穴からフッシーと屋上から木煉瓦の地下室へ飛び下りた。

「アラ、Bさんお久しぶり」  
女給がBを抱へ起して木煉瓦の椅子に連れて行く「レオノット火酒をお呉れ」  
應て女給は炎の燃え立つて居るレオノット火酒を持つて來た。夫れを一杯に飲み乾してしまつたBは忽ち酔つて來た。

「何んだい彼の音」  
「鼠よ」  
「鼠があんなに騒ぐ程居るのかい」  
「飼つてるのよ、鼠糞をとつてお料理造らるのよ美味いわよ、軒からかいちは」  
「あの男何んだい」  
「昨日から歸らないで強い物ばかり飲んでんのよ」  
「酔つてんのかい」  
「随分酔つてるわ、傍へよると熱いの、いまに彼の人達けちやうわよ。」

「俺がもう止めさせてやらう」  
「お止しなさいよ」  
「何故」  
「駄目よ」  
「何故」  
「何故だつて駄目よ」





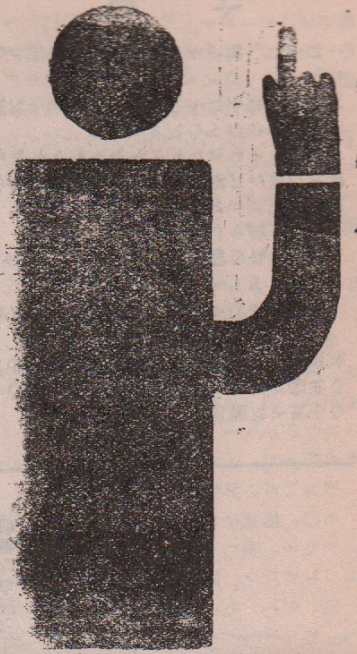












## 健全・美・破壊

萩原 恭次郎

常に鳥許がましくも健全性を誇る小學教師的な感傷と抗議程、笑止千萬な好い氣なものはない。そも、如何に彼が退屈にして、愚劣なる程度で疲れてゐるかよ！小學教師は云ふ！右向け！左向け！傍見をするな！號令一下に行動する小學生！彼等は健全なる小學生である。點數滿點甲上である。機械的製品！一厘一毛の差なく製造されてこそ健全である。彼は一匹の馬車馬である。軌道を外れずに驛々を進む！健全なる馬である。

然り健全性と云ふ事は、外見的に、如何に善良で、好都合で、常識的で、通俗的に役目を果たす品物の定價表であらう！彼が健全性は、あたかも卒業式當日、教師より與へられる優等證を得んがための野心に過ぎない。彼が才權に隷屬せんとする番犬的心情に過ぎない。

現代に健全なるためには、現代の法律範圍内に生活せねばならない。流行に健全なるためには、流行を追はねばならない！ボルシェヴィズムに健全なるためには、飽くまで彼はボルシェヴィズムに終始せねばならない。けれども、現代は、流行は、ボルシェヴィズムは、先へ進む！健全性の自覺は、彼がそれらの追従者である時にのみ與へらる名譽である。安全地帯へ投げ込まれたる無抵抗の豚群であるために、與へられたる光榮である。

我々が頹廢人であるか？自暴自棄！焦燥の人種である

か。あゝ！保護せられたる飼犬にのみ、彼が番犬である限り、健全性のカンサツは取り上げられる怖れは無いであらうから——我等は思へば野犬である。

我々は野犬的である。客間に招じられてゐる、文化人的な新感覺人と、室伏高信式な文明呪詛家とより見たる時、そも、如何に野蠻にして破壊性を好む、非禮的な亂舞者であり得やう。我々は我々の意志を信じ行動し、退屈と假面せる秩序とをピン亂さす。直進せしむ意志！強烈なる欲望！冷厳なる批判と解剖！常に新開地に直面し猛進せんとする激情解放の光明を得んがための暴壓を破壊する力！吶喊！突撃！斯くせねばならぬ旺盛！我々は如何に多くのものを持ち、如何に多くの暗示と戟刺と良心と熱とを持つか！我々は我々に激動する！飛躍する！狂亂する！突進する。急速力を出す！赤裸々になる！抽象的事實を輕蔑する！生々しい瞬間を愛する！強力なる動力的廻轉を望む！

番犬的精神に正反對なるを知れ！彼等の云ふ所の健全性！美！を輕蔑する。そも、社会的に、藝術的に、生活的に、如何に健全性と美との位置を知れ！劣弱なるマヤカン者の假面を剥ぎ取れ！彼れ等の遠吠えを嘲笑せよ！番犬的思想家！番犬的詩人！主權を笠に着る所の、殘飯をあさり、尾をふつて媚びを振りまく彼等の見事なる貞節を見よ！

「僕の所の犬は、仲々忠實で何をされても尾をふるから可愛いよ！お目出度い奴は調法でいゝね。此奴が子を産むまでは飼つといてやらう！ハハハ……」彼の主人は輕蔑と嘲笑と憐憫の目をもつて云ふてはないか！

### 破壊的であると云ふ！

彼は創造的でない！と聞く。けれ共破壊的であると云ふ！そも、この矛盾は何處から來るか？我々は常に堪え難きまでの行き詰りと、退屈を知つてゐる。創造とは如何なる正體であるか！彼は目的も形式もあらかじめ我々におぼろげなる姿を示してゐるものか？統一や綜合化によつて、形や目的と云ふやうな厄介な代物を引きつれてゐるオバケであるか？我々は鐵の扉と壁をもつて閉鎖された。然る時、我々はたゞ之を破壊する事によつてのみ自由を得る！一つの目的に對する時、それへの意識的破壊は、創造とは云ひ得ないか？破壊へ突進する氣力！その曙光を認めた事！それらの潜在的意識の流動を創造とは呼ばないか？また、われわれが突發的に偶然的に、衝動的爆發を成す！彼は完全に一つの新天地と新天地を得た！その瞬間！われわれは之をも創造的とは呼ばないか？われわれはそれを客觀視する時、それは一つの破壊状態をもつて自分らに迫る事を知る。彼れの創造に接した時！我々は非常な破壊さを感じる！それへの理解！陶醉！を得る！先づ初めに多くの嫌惡と憎惡と不純さを我々自らの體内に精神に感じつゝ彼の成したる意圖を理解し初める。而して後に創造なる事を知る！われわれは破壊の後の建設なんて云ふ手ぬるさと、馬鹿しさを知らない！一つの破壊のみを創造的先驅と呼びたい。

(紙數のないために止める)



雄 毒 牧

本本から云ふと俺のこれから書くことは、俺が久しぶりて歸京した晩に岡田龍夫への、土産話に何處かのカラエーで——それとも岡田らしく電氣グラムの繩のれんでもない、酒の肴に持つて歸る筈の話なんだが、刻々、秒々、奈落の底へ天上してゆく忙がしい俺のことだ、日

何のこたあねえ、1925年頃に生存して居るのが不思議な位な、油繪描き、新聞馬車、イスト、イスト、等々々に對して、想像もつかぬ加速度で原始へ逆轉し盡した上に、正確極まる角度で三百年も未來へ跳躍し亂舞して居る人間との暴力的亂闘だ。

芝居にならないうなど云ふな。本年一月から現在までかくも長期間に涉つて、あらゆるラヒエニシの限りをつくした争闘が、理然として近代施設のアースモストの上で、フキルムのように廻轉されたことは、全く否定の餘地を與へない程明瞭な、全意志の没落を暗示するための作品「近代文明への全的抗議理由」が立派に裏書きされたことになるのだ。

感嘆ひをするな、相手をほめて居るんぢやないんだ。全體これが神戸で個展をやる氣になつたのは、最近の作品に建築的なものや、海洋に關したものが大分あつたので、其方面の技術家と第一期の提携の進路を開く目的で計畫されたものなんだ。第二の目的は、春、神戸で開かれた博覽會に、わたりをまつけて仕事をやらうとしたのと、も一つ、おれの近作になる映畫劇の脚本に關して某社と交渉ある要件であつたのだ。

繪かきさん達に用はなかつたのだ。ところがどうだ。おれの到着した三日目に、おれの全く豫期しない、しかも、全く問題外と思つた繪かきさん等の中に既に「證據の残らぬ様に上手に妨害する」計畫を立てた者があつたと云ふではないか。

而してそれは、行はれたのだ。全くうめえもんだ、おれはすつかり感心したよ。「神戸を荒しに来やがった」のが、癪にさわるなら、東京へ荒しに来い。

おれの被害で一番大いなのは、新聞關係と會場とだ。獸殺はささい。大阪朝日の記事に就て、おれの個展會期中、約束した通りの責任を果たして呉れなかつたらおれは原因の出所を、不愉快だが、えぐり出すまでだ。MAYOの仕事が氣に喰はないのか、それとも、やまもちをやくのか。新聞らしくもねえぞ。尤も、淺野孟府なども、はじめはだいい分冷淡にやられたらしいから俺支けてもないうと云ふのか。然し流石に孟府だて、どう、わたりをまつけたものか、朝日では、滅法うまくやつてゐやがる。エッへ。達者な奴だて。

神戸が東京の縮圖だなんて、へへ、笑はせやがらあ。これに云はせると、海洋氣象臺の須田技師と、造船所のクレインと、ケーブルカーとが無かつたら後は風景だけ残だらう。

イナガキが何を戸まどひしたのか、俺の個展会場へ来て（其時俺は居なかつたが）イナガキが猿マスなら、マオの奴らは、犬マスだと云つて憤慨したそうさ。頭の惡るいことを云ふもんぢやねえ、一體全體、犬がどうして○するの。氣をうつけて言つて呉れ。イナガキの自分にしては不似合な奴が一人居る。田中

クイスクと云ふチンピラだ。貧乏だけに話せる奴だ。仕事は別だ。おれの個展開催中に暴力團との亂闘が三度あつた。そのうち二度は俺の會場近くで、他の一回はカンフエーガスマの浅野一黨の造型展の會場である。勿論三度ともおれの作品が奴等の癖にさわるから原因を發してゐる。もつと、はつきり云ふと、動きのとれない立場にウン

ツンもがいてゐる奴の陰謀的計畫に依る巧みな運動の結果なのだ。第一、第二、第三とも然し氣の毒にも俺の勝利に終つたのだ。第一のは、關西名物の土地ゴロだ。第二は、生意氣な文化式學生。第三のは、共產黨員と自稱するISMの手淫者だ。

カスマの會場にかつてゐる俺の「近代の文明施設への全的抗議理由」と題する作品に附けてある眞黒の硝子板三枚と圓筒形の構造物を俺の不在中に、たつき落した奴がある。そこで俺が「變蟲!! 勇敢なる變蟲、遠慮するな、作品を持ち去れ、街上に放チキセよ」と書いて壁に貼つて置いたからたまらな。

スパイが報告して行くのを期に、奴等の襲撃を喰つたのだ。おれの作品一丈五尺に九尺の茫大な奴が、今凌辱される様とする時、反動的な人間が四人飛び込んで、亂闘の幕が切つて落されたのだ。自稱共產黨連——斷つて置くが煽動者は其處に顔を出す様なへんな奴ぢやないこと及びは後でわかつた——が、サンザツばら返り討に合つて事は済んでしまつたのである。第一のは鋪道の上での出合ひ頭に打つかつた上、煉

瓦で、簡単に事はすんでしまつた。第二は、第三の事件の豫備の衝突であつて、この青い奴は、おれの方へ鞍轡をしましてつた。一方こんな不愉快な迫害の中に、俺の個展の目的は、くん——達せられて行つたのである。専門的建築技師、造船技師、等の實に熱心な訪問を受けた後、この方面に新運動（實際的、革命的な）を起す可能性を認め得る迄に事は効果的に運んで行つたのだ。今、俺の手で組立てゝゐる一設計の機型が遠からず専門技師の手で眞物に造られる筈だ。（下以二十六頁續く）



|                          |                                                    |
|--------------------------|----------------------------------------------------|
| <b>L' EFFORT MODERNE</b> | Léon Rosenbrg 19. Rue de la Boume (8e) Paris.      |
| <b>DAS WERK</b>          | Verlag Gebr. Fretz A. G. Zürich                    |
| <b>L'ESPRIT NOUVEAU</b>  | 3. Rue du Cherche-midi, Paris                      |
| <b>THE NEXT CALL</b>     | H. N. Werkman, Lage der A13, Groningen, Nederland  |
| <b>STAVBA</b>            | Charles Feige, Kolkovna 3. Prag e Ie Tchecoslov    |
| <b>MA</b>                | L. Kaasak, Amalienstrasse 26/11, Vienna            |
| <b>HET OVERZICHT</b>     | F. Berckelaers, Turnhoutschebaan 105, Anversa      |
| <b>ZENIT</b>             | L. Mitzitch, 12, Rue de Birtchanine, Belgrado      |
| <b>DE STIJL</b>          | Theo Van Doesturg, Klimostraat 18, L'Aja, O'anda   |
| <b>DER STURM</b>         | H. Walden, Potsdamerstr. 134-2, Berlin W.9         |
| <b>NOI</b>               | E. Prampolini, Via Tronto, 89-Roma (36)            |
| <b>L'AURORA</b>          | S. Pocarini, Via Barzellini 3, Gorizia             |
| <b>INTEGRAL</b>          | M. H. Maxy, calea Victordei No 79, Et 1, Bucaresti |
| <b>MANOMETRE</b>         | E. Malespine, 49, Cours Gambetta, L'one,           |
| <b>7 ARTS</b>            | P. Bourgeois, Boulevard Leopold II 271, Bruxelles  |
| <b>G. □.</b>             | H. Richter, Escheustr. 7, Fri denau, Berlin        |
| <b>PERIODE</b>           | Rue de Courtrai 55, Bruxelles-Ouest                |
| <b>BLOK</b>              | H. Stazewski, Warszawa ul. ws, lna 20m. 39         |
| <b>MAVO</b>              | Kamiochiai 186, Tokio, Japan.                      |

● 東京府下上落合 186 ●  
● 東京市芝風今入町 21 ●

長隆舎

を實費で迅速に取次販賣致します。

其他世界各國及我國の各種藝術雜誌

注目すべき 世界の雑誌







EAST ASIAN LIBRARY UNIVERSITY OF CALIFORNIA AT LOS ANGELES

